

## 別添 1-1 幹線道路網の抽象化による接続点の設定方法

ある枝路線と他の枝路線が接続する箇所では、幹線道路網を抽象化して「接続点」を設定する。幹線道路網の抽象化による接続点の具体的設定方法を、以下に分類して示す。

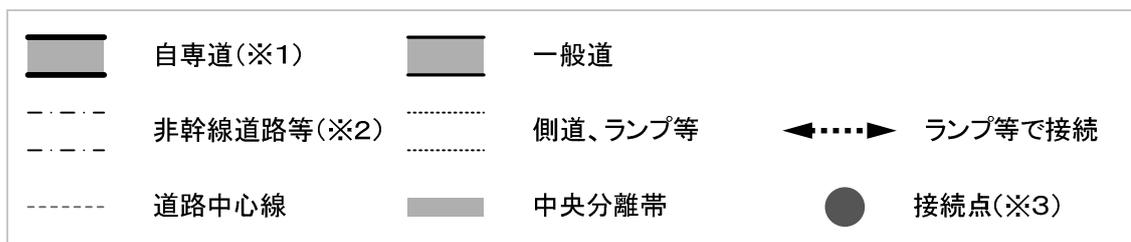
### A. 一般的な形状

- (1) 平面交差
- (2) 立体交差
- (3) 並走する路線

### B. 特殊な形状

- (1) 上下線で大きく分離
- (2) 筋違い交差点
- (3) 複数交差点の隣接

参考図の凡例は図 1-18 のとおりである。



※1 自専道は、道路法で自動車専用道路に指定されている道路

※2 非幹線道路等は、幹線道路以外の道路及び道路法以外の道路（交通調査本区間を設定しない道路）

※3 接続点は、幹線道路同士が接続している箇所、またはランプ等で幹線道路と合流している箇所

図 1-18 参考図の凡例

A. 一般的な形状

(1) 平面交差

路線同士が平面交差により接続する場合は、それぞれの路線が1箇所接続されるものとして抽象化する。

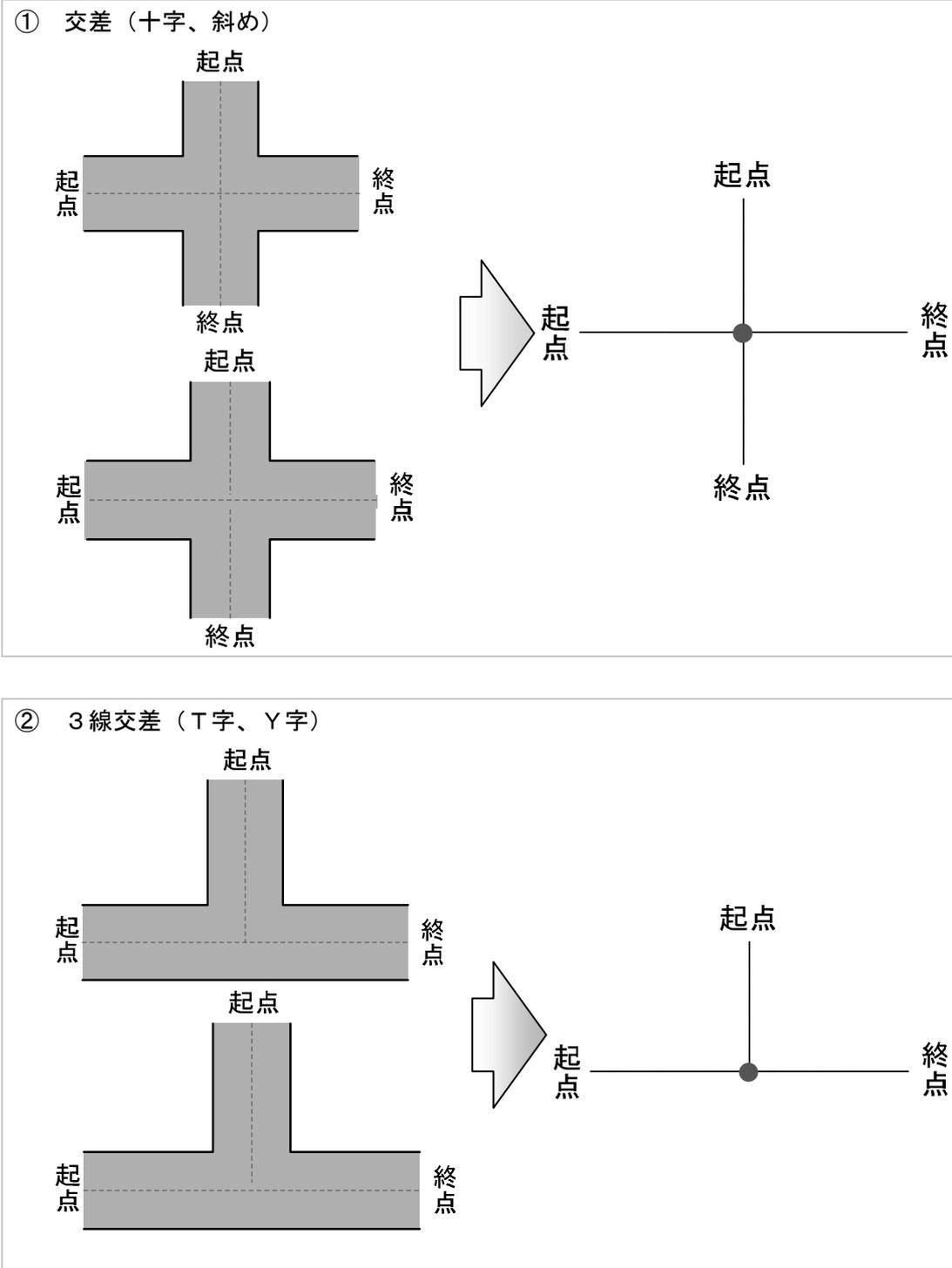


図1-19 平面交差により接続する場合の参考図

## (2) 立体交差

路線同士が立体交差により接続する場合は、それぞれの路線が1箇所接続されるものとして抽象化する。なお、路線同士が立体交差するが、ランプ、側道等の連結路がなく交通量出入りができない場合には、接続箇所として扱わない。

接続する路線が一般道及び自専道のどの組合せであるかを問わず同様の扱いとする。

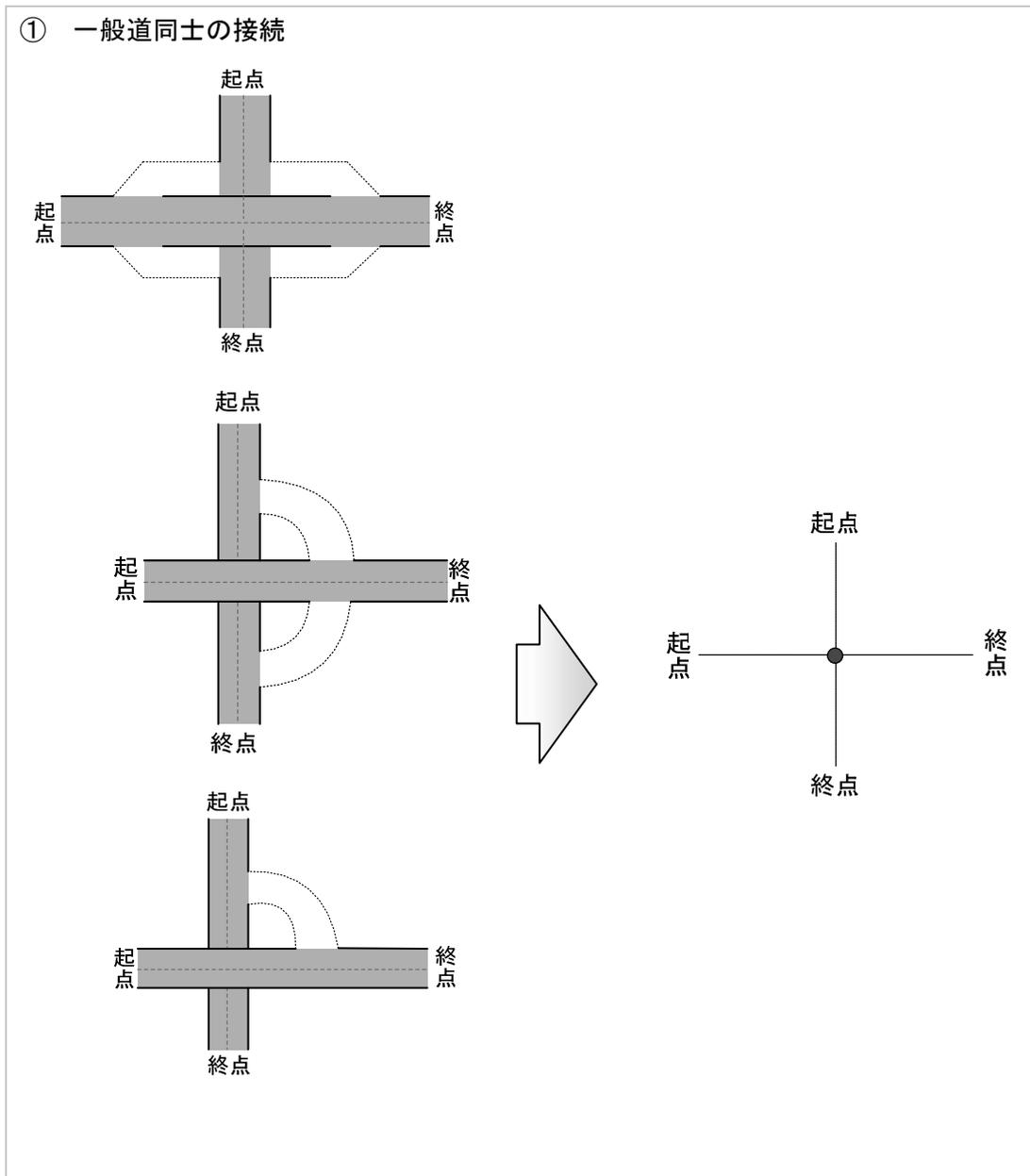


図 1-20 (1) 立体交差により接続する場合の参考図

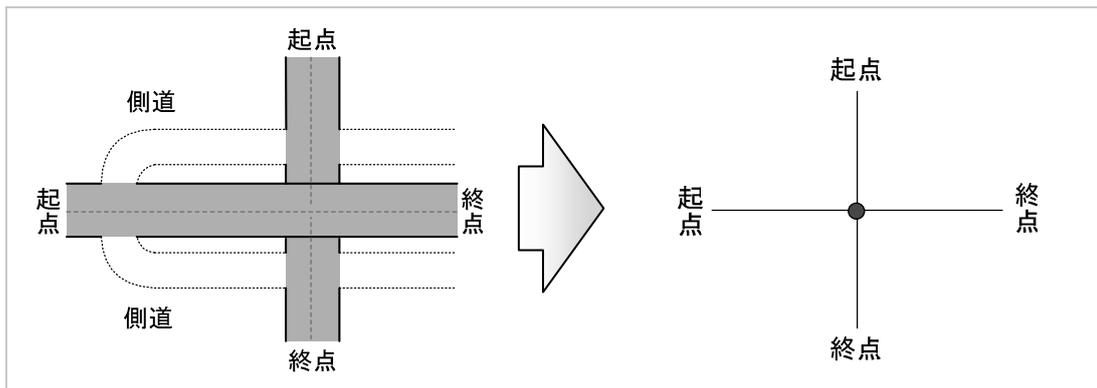


図 1-20 (1) 立体交差により接続する場合の参考図 (続き)

② 自専道と一般道の接続

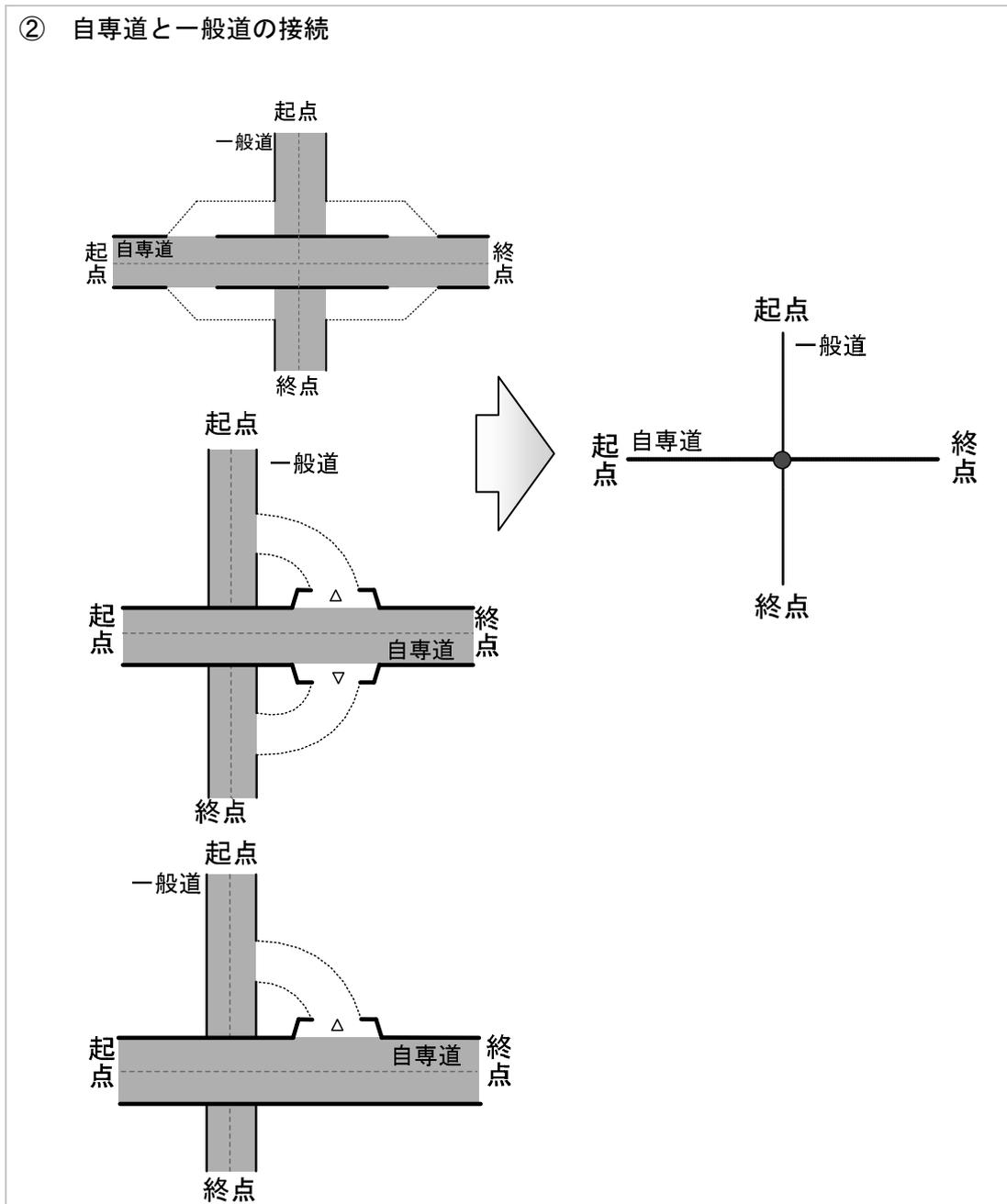


図 1-20 (2) 立体交差により接続する場合の参考図

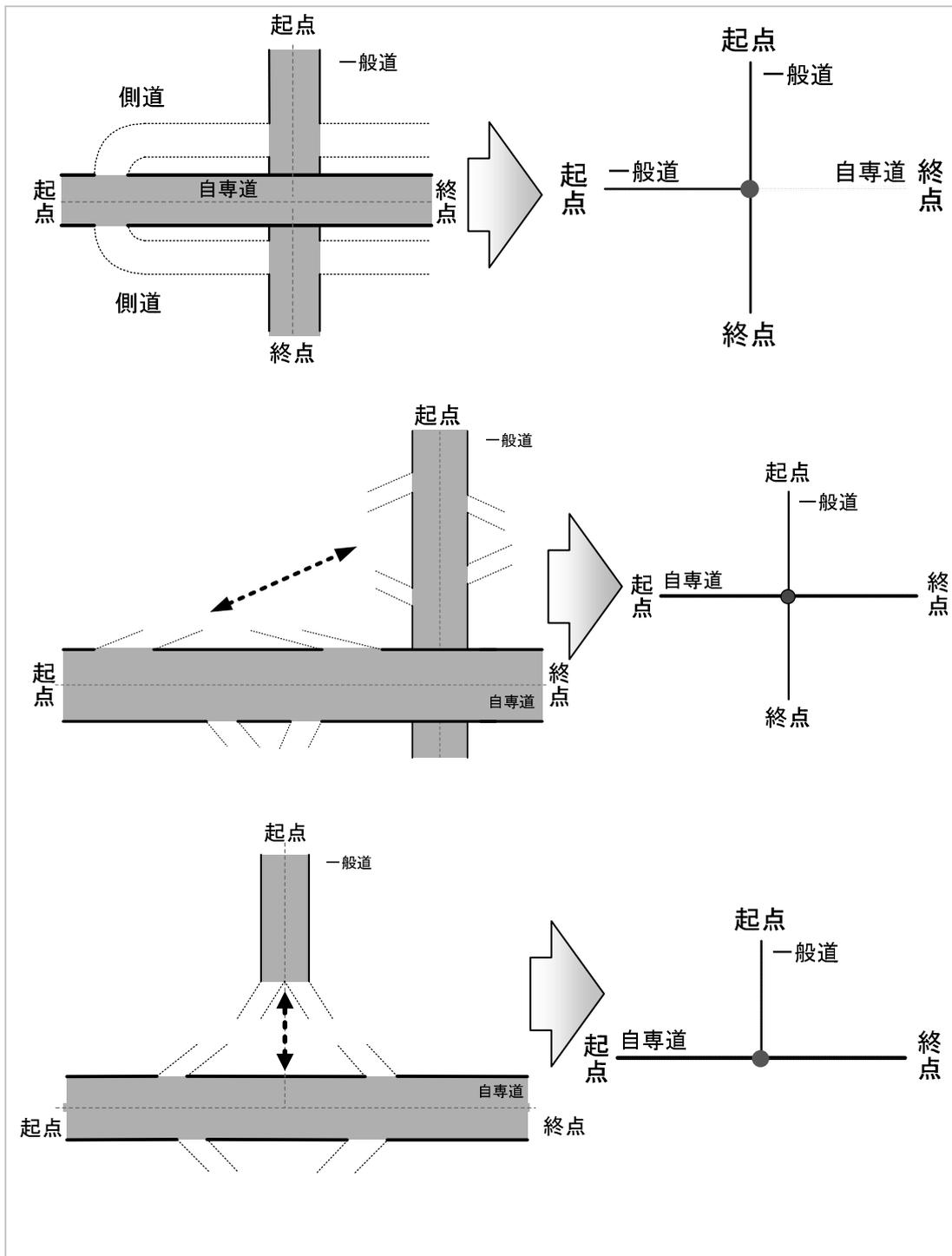


図 1 - 2 0 ( 3 ) 立体交差により接続する場合の参考図

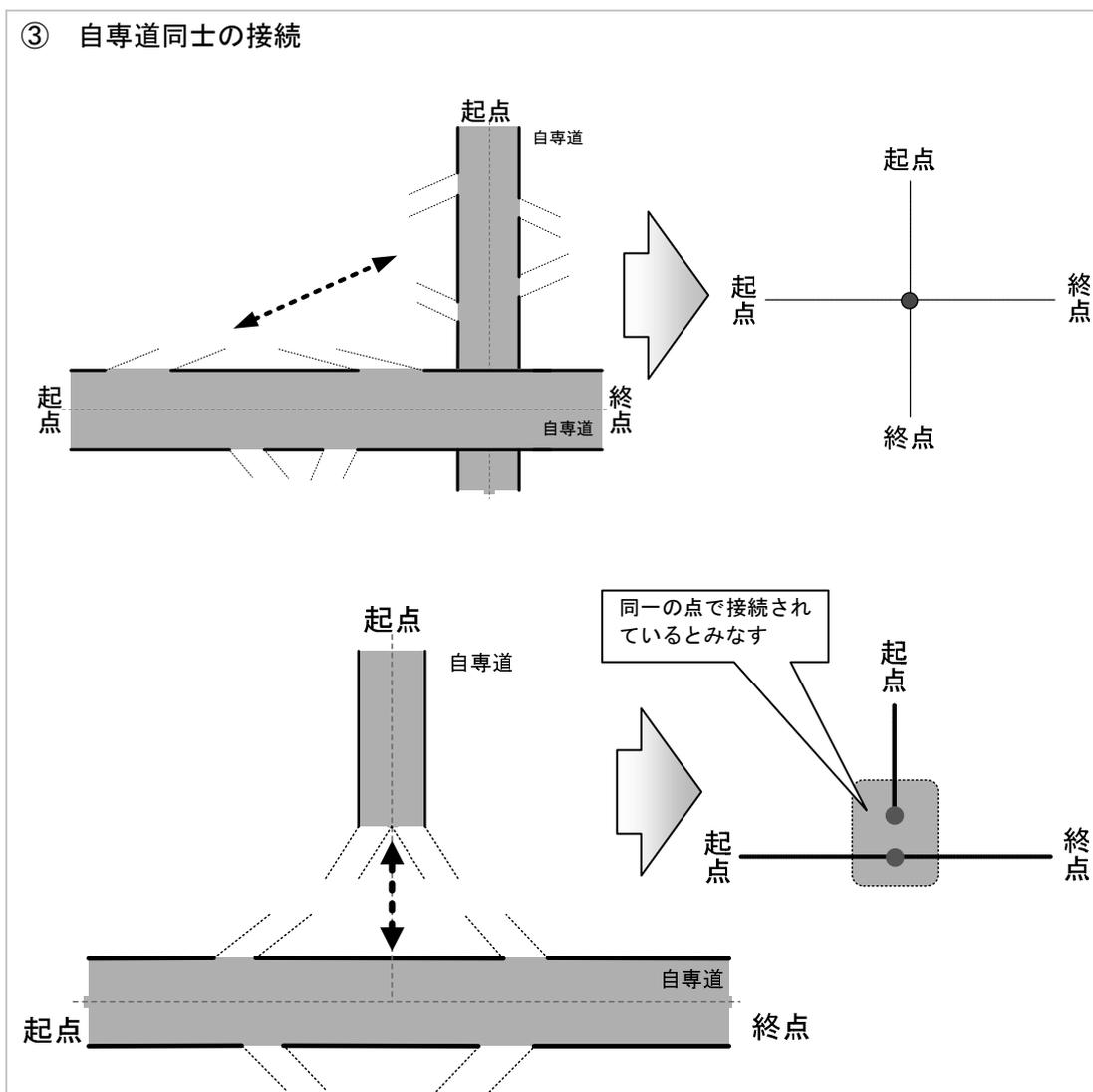
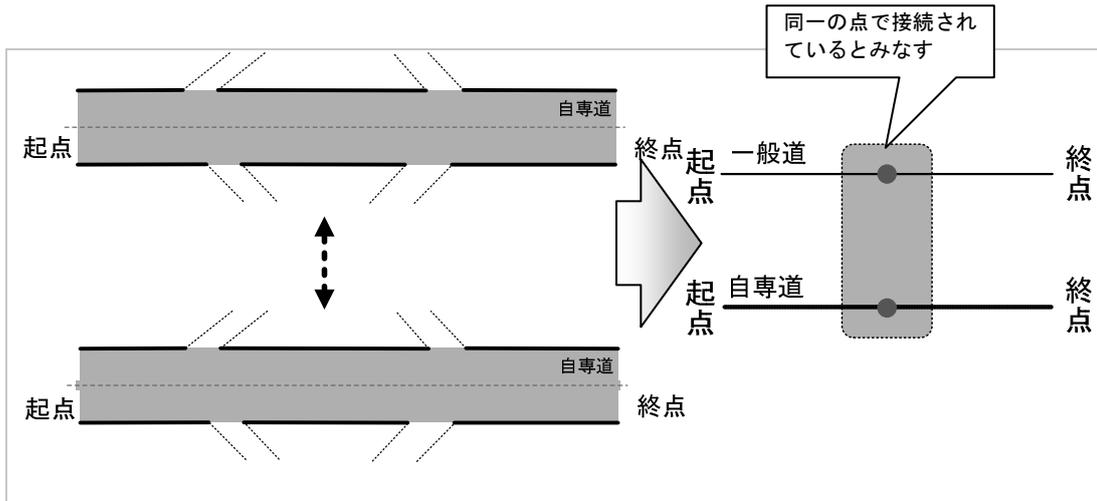


図1-20(4) 立体交差により接続する場合の参考図

### (3) 並走する路線

高架等を挟んで上下線が分離されている路線は、統合して一本の路線として扱う。ランプ等で接続されている場合には、それぞれの路線が同一の点で接続されているものとみなす。

ただし、同じ路線同士が並走している場合には、両路線を同一の枝路線として扱う場合と一方を複断面路線等の別の枝路線とみなす場合で接続する箇所での扱いが異なる。

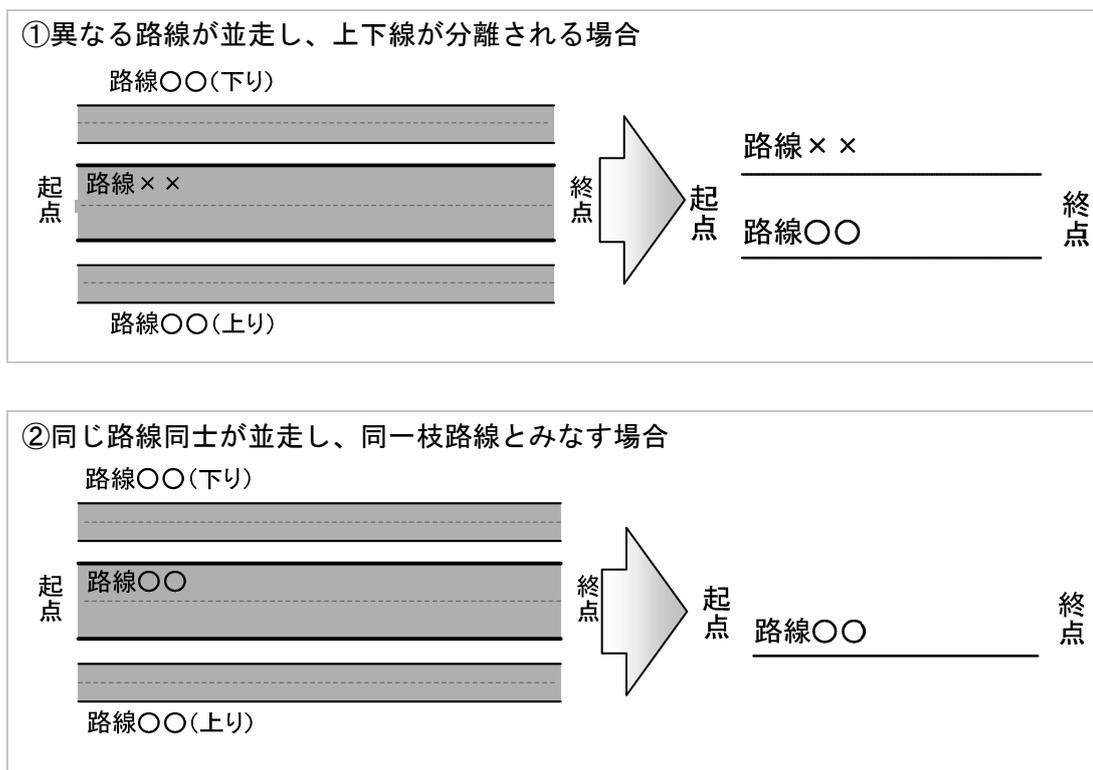
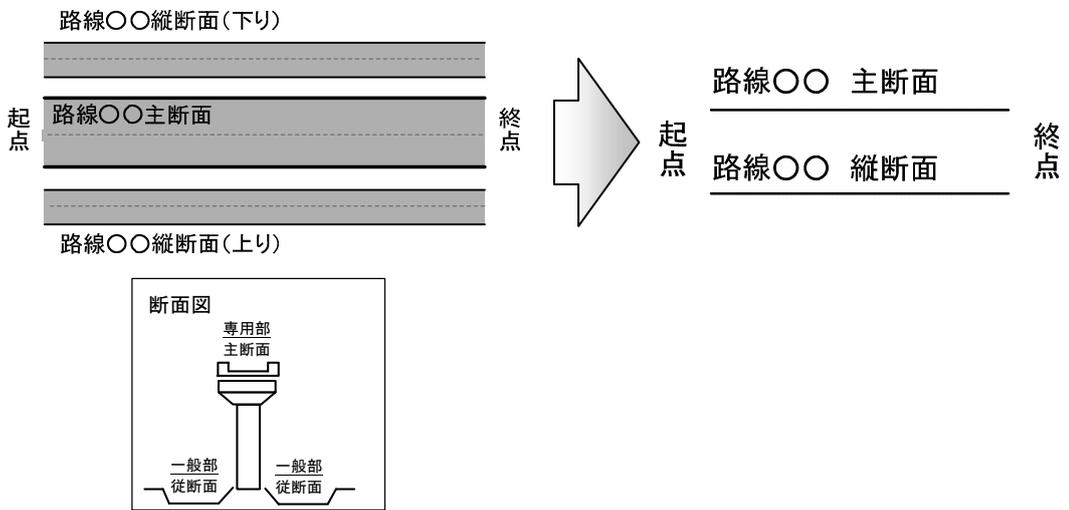
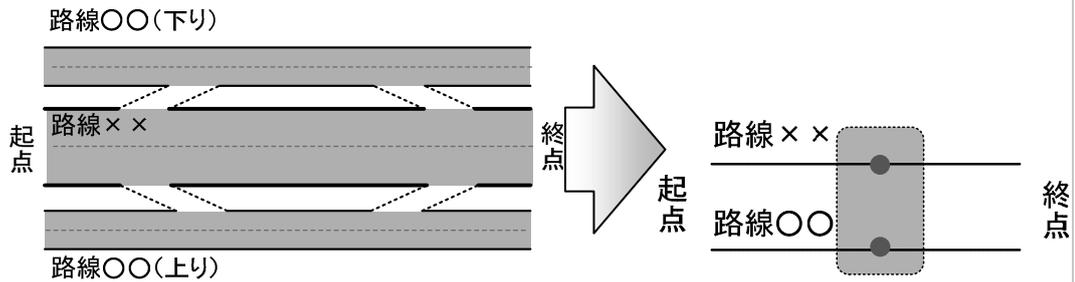


図1-21(1) 並走する場合の参考図

③同じ路線同士が並走し、異なる枝路線とみなす場合



④並行する枝路線が接続する場合（出入り口が隣接）



⑤並行する枝路線が接続する場合（出入り口の間に別路線が隣接）

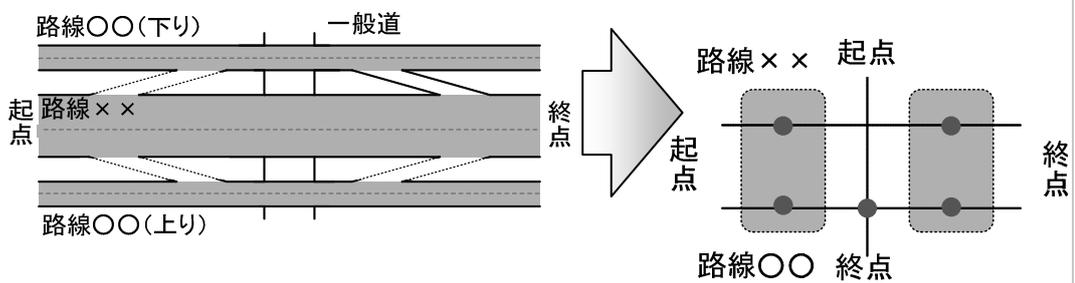


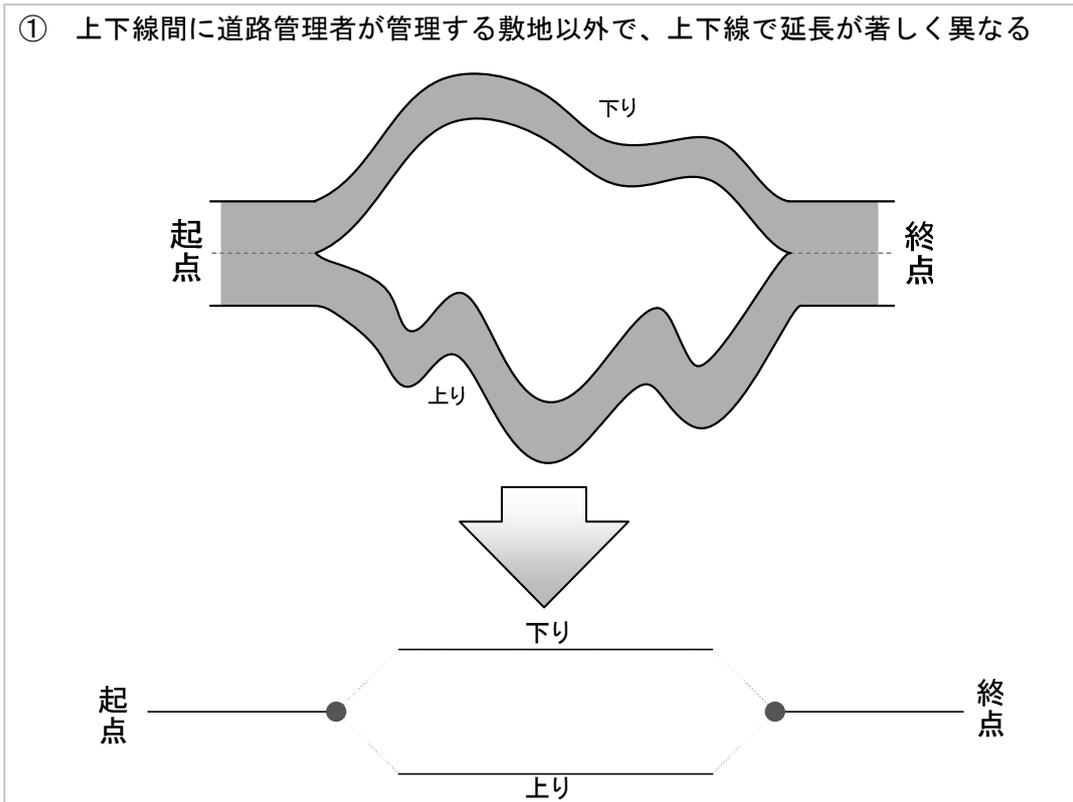
図1-21(2) 並走する場合の参考図

## B. 特殊な形状

### (1) 上下線で大きく分離

上下線が大きく分離している路線については、上下線を別の枝路線（分離路線）として抽象化する。”大きく分離”とは、上下線間に道路管理者が管理する敷地以外があり、上下線で延長が著しく異なる場合、上下線間がおよそ 100m 以上の場合をいう。

#### ① 上下線間に道路管理者が管理する敷地以外で、上下線で延長が著しく異なる



#### ② 上下線間がおよそ 100m 以上

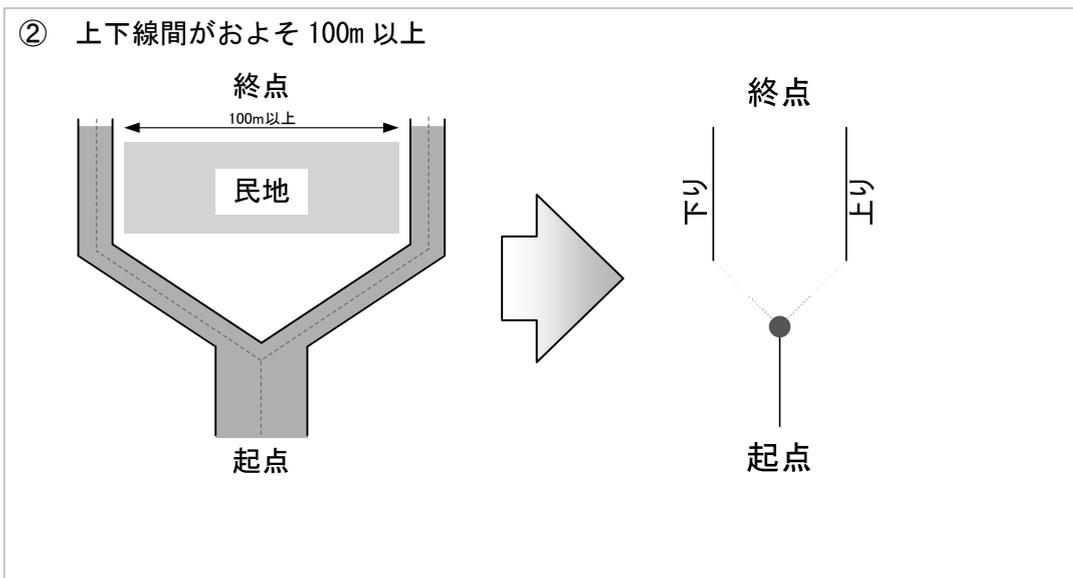


図 1-2-2 上下線で大きく分離する場合の参考図

## (2) 筋違い交差点

筋違い交差点は、隣接（その距離がおよそ 100m 以内）している場合は統合して抽象化し同一交差点とみなす。一方、およそ 100m 以上離れている場合は、同一交差点とみなさない。

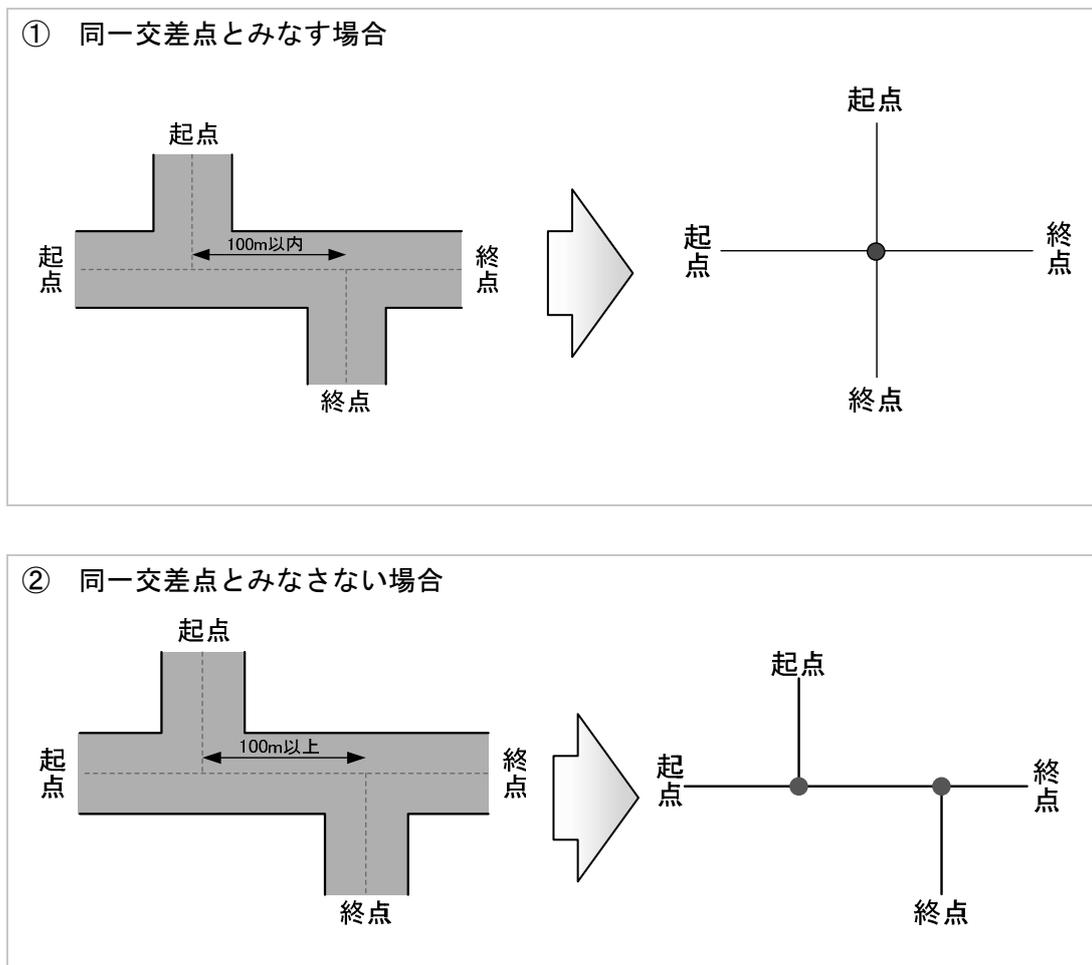


図 1 - 2 3 筋違い交差点の場合の参考図

### (3) 複数交差点の隣接

「隣接（およそ 100m 以内）する複数の交差点」または「自専道のジャンクション部分」は統合して抽象化し、同一接続点とみなす。

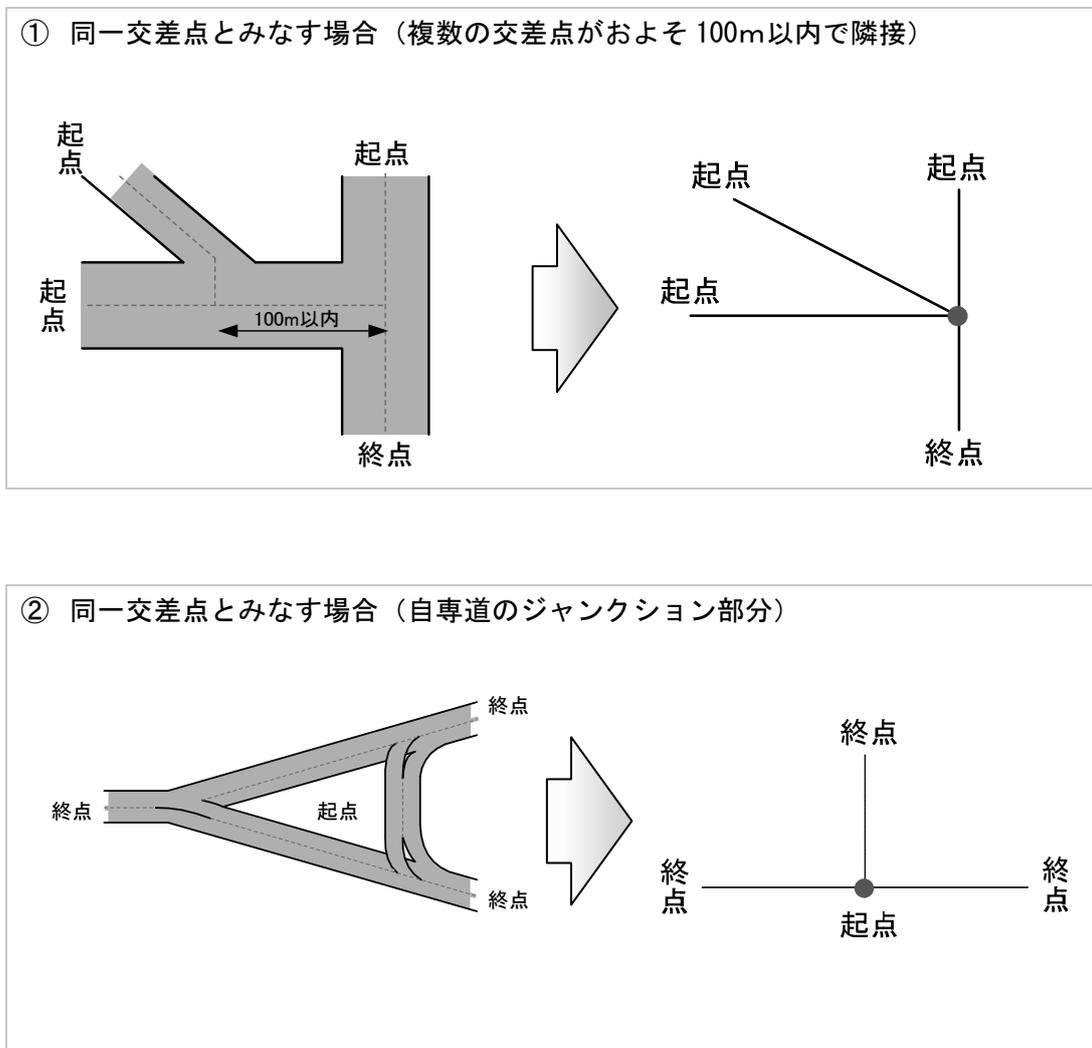


図 1-24 複数交差点が隣接する場合の参考図